福祉サービス第三者評価の結果

1　評価機関

名称：有限会社　エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ケ崎台 24－3
評価実施期間： 令和　４年　８月　１日から令和　４年 12 月 12 日　＊契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050542　061163	

2　福祉サービス事業者情報（令和　４年 10 月現在）

事業所名：飯綱町立りんごっ子保育園		種別：保育所
代表者氏名：管理者　峯村　勝盛 園長　髙原　清子		定員（利用者数）：60 名（65 名）
設置主体：飯綱町 経営主体：飯綱町		開設年月日：平成 14 年 4 月 1 日
所在地：〒389-1222 長野県上水内郡飯綱町大字柳里 467 番地		
電話番号：026-253-1201		FAX 番号：026-253-1202
電子メールアドレス：hoiku@Town.nagano.jp		
ホームページアドレス：https://www.town.iizuna.nagano.jp/		
職員数	常勤職員：７名	非常勤職員：12 名
職員内訳等	保育士：12 名　栄養士：１名　調理員：２名 園バス運転手：２名 常勤職員の平均年齢：44 歳　平均在職年数：15.5 年	
施設・設備の概要等	乳児室：１室　遊戯室：１室　便所：６室 未満自室：１室　保育室：５室　調理室：１室　事務室：１室 絵本コーナー：２か所　お話しコーナー：２か所　乾燥室：１室 プール：５ｍ×７ｍ　園庭：1.231 ㎡ 屋外遊具：すべり台、ブランコ、雲梯、鉄棒、複合遊具、砂場	

3　理念・基本方針

【保育理念】子ども達が現在(いま)を幸せに生活し、未来(明日)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人一人の子どもを心から尊重し、子ども、保護者、地域に最善をつくします。

【保育目標】無限の可能性を秘めている子ども達が、日々を最もよく生き、望ましい未来を作り出すカの基礎を培うことを目標に、次のような子どもに育てます。
　生き生きと遊ぶ子ども　思いやりのあるやさしい子ども　感性豊かに育つ子ども

① 一人ひとりを大切にし、すべての子どもの発達を保障していきます。
② 家庭としっかり手をつなぎ、共に協力し合って、子どもを育てていきます。
③ 一人ひとりの子どもを職員集団で見守り、発達を確かめ合っていきます。
④ 子どもの年齢や発達の状況に合わせて保育目標を持ち、計画を立て、見通しのある保育を行っていきます。
⑤ 障害児保育を進めるにあたり研修し、保育内容の向上に努力します。
⑥ 地域と深くつながった保育園であることを目指し、未就園児体験入園等を積極的に取り組みます。

4　福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

小規模保育園ならではの兄弟のような育ち合いを目指し、異年齢による遊びを多く取り入れています。
自然の面白さや不思議さを味わい、好奇心が生み出されることを願い、園内外での身近な自然との触れ合いを大切にしています(長野県「信州型自然保育」認定園)。
「自分でやりたいことを見つけ、熱中して遊べる環境のあり方」を求め、園内研修の充実を図っています。

5　第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）　２回（平成 30 年３月）

6　評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇　特に良いと思う点

○　りんごっ子色の保育

利用定員が 60 名という程良い人数で、年齢に関係なく園児の仲が良く日常的な異年齢交流も盛んである。
それは園の方針でもあり、クラス枠にとらわれず皆で一緒に過ごすことで人間関係が広がり、思いやりのある子どもに成長する効果もある。

周囲がリンゴ畑にかこまれており、豊かな自然環境に恵まれ、そこに住む住民は園児を温かく迎え入れ、また、地域全体で子どもを育てて行こうとの思いもあり、子育てにも優しい地である。
季節になれば、起伏のある道やあぜ道などの散歩コースではヘビ、トカゲ、バッタ、カブトムシなどの生き物と触れ、冒険、探索活動も盛んである。
そこでの散歩や遊びを通しての五感刺激、生き物への興味が心身の健康の基礎を培っていることも納得できる。
また、信州型自然保育認定園として周辺の特色を活かし、身近な自然に触れることで発見、好奇心、探求心、感動を学び、感性豊かな子どもに育っている。
各クラスには自分達で捕ってきた昆虫や生き物を飼育して、命あるものへの接し方を学び、命の大切さも実感している。
さらに、広い庭園の２ヶ所と園外に畑があり、子ども達が育てたい野菜についても話し合い、何種類もの野菜作りに取り組み、成長、収穫、調理の手伝いを通して、命のありがたさと大切さを学んでいる。

地域老人会、おはなしの会、自然体験ボランティア、地域のサッカーチームとの交流がある。
また、町を上げての読書推進に併せて、年長児が読書祭りに参加する機会もある。
こういった地域社会、多様な大人と接する経験や読書の楽しさの醸成は、子どもの実体験を増やすとともに創造力を高めており、語る未来や将来の夢へと繋がり、また、年長に向かう時期には感情コントロールができるようにもなり、思考能力の発達、言語の発達、周囲の人との関わりなど、園児の育ちに効果を上げている。

保育目標である「生き生きと遊ぶ子ども」、「思いやりのあるやさしい子ども」、「感性豊かに育つ子ども」の実践は、全体的な計画の下に環境を活かした各クラスの年間指導計画、月案、週案に表れている。

○　専門職としての取り組み

県が推進する SDGs について組織的な認証は受けていないが、３園の担当職員を中心に「飯綱町保育園 SDGs を意識した年齢別のねらい」を定め、保育士が意識して保育に打ち込めるようにしている。
養護、教育、食育、健康・安全、人権からなる 10 領域のねらいを期ごと、年齢ごとに落とし込み、17 ゴールで整理してわかりやすくしている。
専門職ならではの取り組みと感心する。

一方、りんごっ子保育園の特色であった寝食分離はコロナ禍で中止となっている。
コロナ禍の現状はどの保育園もそうであるが、様々な事柄が縮小や中止に追い込まれ、特に、保護者が園での子どもの姿を見たり、知る機会が大幅に制限されている。
このことは保護者アンケートにも表れている。
そのため、保護者との連携について重視したのが園だより、クラスだよりの充実である。
各クラスの月案をクラス入り口に掲示する他、毎週発行する園だよりはA3 用紙にカラーコピーで１週間の園での子どもの姿をドキュメンテーションで知らせている。
また、翌月の各年齢別の指導計画のねらいや行事について、コロナ感染防止について、第三者評価受審への理解などなど、更に保育園の方針、目標、姿勢等についての説明もしている。
毎月のクラスだよりも同様に各クラスの内容、取り組みが分かりやすく報告されている。
園だより、クラスだよりを読むと子どもの生活を知ることができ、また、園の方針や指導計画が分かることで保護者との連携が図られやすくなるとともに、満足度を高めている。

できない理由はすぐに上げられるが、どうすればできるかと代替え案を創造、工夫することは専門職としての務めであり、やり甲斐といえる。

◇　特に改善する必要があると思う点

○　未完成を知って仕組みの充実

研修参加を奨励しているが、コロナ禍で思うように実施できない現状もあるが、専門性にばかり注力すると、福祉施設における一番大事なことを忘れがちになる。

それは、利用者の生命の保持や、権利擁護・プライバシーの保護である。
豊かな自然に囲まれた環境のリスクとして、昆虫等の動物が危険をもたらすことも意識し、お散歩マップの作成では周辺の発見動物等や危険個所の追加、予想される事故、事例なども表示して情報の共有を図ったり、散歩時の携帯品のリスト化など、子どもの命を預かる立場としての安全確保に細心の配慮を期待したい。

また、個人情報の保護とプライバシーの保護が同一視されている面もある。
それらの研修だけでなく、各種研修については全保育士が必ず年１回は参加できるようにしたりして、職員個々の研修履歴を作成することは意味があると思われる。

そして、記録の統一のために、記入の手引の作成、周知や指導も必要と思われる。
現時点の多くは職員間での口頭での確認や指導が多く、それらを文章化することで一定の水準や差異をなくすことができる。

代替保育の際は担任が指示書に主活動、保護者対応、配慮事項、課題を抱える子どもへの留意点、アレルギー対応児への注意点などを記載し、代替者の実施内容の加筆されたものを週案ファイルへ綴るなどすると、後日の担任の保育へと繋がっていく。
代替者がクラスに入るときは、引き継ぎ表が事前に作成されており、当日の子どもの活動、留意点、担任からのアドバイス等も載っているので、本人も戸惑うことなく、子どもに不安を与えることもなく一日の保育が進んで行き、代替保育士にとっては安心ともなる。
このことは、早朝、日中、延長の各保育士にも当てはめたい。

意見・苦情等の際の仕組みの改善も期待したい。
保護者等がいつでも確認できるように玄関からのアプローチに第三者委員の名前、連絡先等を掲示しているが、第三者委員の活躍の場を増やして来園を促し、保護者等と顔の見える関係作りも必要であろう。
誰しも、会ったこともない、知らない人には相談しないものである。
また、内容、対応だけでなく、子どもが原因であれば対象児の再発要因は治ったか、保育士が原因であれば注意するだけでなく、その後の保育士の対応が良くなっているか、施設面でいえば、原因が再発する可能性はないかなど、事後の検証の仕組みである。

保護者向けの園のしおりにはデイリープログラムのほか、基本的なルールとして主食の持参、服装、持ち物についての記載がある。
子どもによっては家族よりも多くの時間を過ごす保育園であり、保育士に合った服務規定等をマニュアル化することで、信頼できる大人のいる環境となり、職員の専門職としての意識も高まると思われる。

これらのマニュアルを一つにまとめ、定期的な検討、見直しで、常に現状に適しているマニュアルとなることを期待したい。
そして、子ども、保護者は、提供する福祉サービスの消費者であるという意識の高まりを期待したい。

７　事業評価の結果（詳細）と講評
共通項目（別添１）
内容評価項目（別添２）

評価細目（別添1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。
ａ：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
ｂ：ａに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、ａに向けた取組みの余地がある状態
ｃ：ｂ以上の取組みとなることを期待する状態
つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してａ・ｂ・ｃを決定しています。
そのため、当評価機関としてはａの場合は取り組み状況、ｂ・ｃの場合は取り組み状況と検討課題を記載しています。
そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

８　利用者調査の結果
アンケート方式（別添３－１）

９　第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

よりよい保育サービスの実施を目指して、平成29年度に続き２回目の第三者評価を受審させていただきました。

信州型自然保育認定園として、豊かな自然環境や人的環境を生かした保育実践を重ねている点や、コロナ禍で種々の制約がある中、園だよりやクラスだよりで保護者に対し丁寧に報告や周知をしている点などを高く評価していただいた一方で、改善すべき課題もご指摘いただきました。

保育の専門性を高める研修だけでなく、利用者の生命の保持や、権利擁護・プライバシーの保護に関する研修も重視し、子どもの安全確保に一層努めていきたいと思います。また、周知のこととして行っている保育の仕方や記録方法、保育士の服務規定や自己評価の活かし方等々について改めて見直し、具体的に示したマニュアルを作成して、園全体の保育の質の向上を図っていきたいと思います。

職員一同、課題に対して真摯に向き合い、子どもの最善の利益を考えてよりよい保育を目指してまいります。保護者が保育士と子どもの成長の姿を共有し、気がかりなことはいつでも相談できる体制づくりをして、連携を一層深められるように努めます。そして、子どもたちが「保育園、大好き！」「明日も楽しみだな」と思える園を創ってまいりたいと思います。

最後になりましたが、評価実施にあたり、丁寧な調査と報告を行い、適切な助言をしてくださったエフワイエルの皆様に、心から感謝申し上げます。